



※ 都教育委員会は、毎年11月第1土曜日を「東京都教育の日」と定めています。

教育庁報

平成18年(2006年)12月5日

No. 522

東京都教育庁総務部
教育情報課
Tel 03(5320)6733

東京都教育委員会ホームページアドレス <http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>

今月の主な内容

- 平成19年度都立高等学校等の第一学年生徒(学生)の募集人員等について 1
- 平成20年度開校予定都立中高一貫6年制学校の入学者決定に係る適性検査問題(例)等について 4
- いじめ問題解決への対応について 5
- 教職員への児童・生徒へのいじめによる服務事故への対応について 5
- 平成18年度「東京都教育の日」の取組 6
- 養護学校生徒の現場実習 11
- 都立久留米高校サッカー部全国大会出場決定! 11
- 東京都「子どもの生活習慣確立プロジェクト」 12

都立高校等合同説明会



11月5日に都立立川高校、12日には都立新宿高校において都立高校等合同説明会が開催され、両日合わせて約12,000人の中学生と保護者が訪れました。それぞれに希望する高校等の相談コーナーを回り、資料を受け取ったり、教職員と直接話したりして情報を集めていました。

平成19年度都立高等学校等の第一学年生徒(学生)の募集人員等について

平成19年度都立高等学校等の第一学年生徒(学生)の募集人員等は、次のとおりです。

I 高等学校

1 【全日制課程】

(1) 募集概要

区分	平成19年度	平成18年度	増△減	備考
学校数	174校	174校	0校	新設 5校 30学級
学級数	1,041学級	1,035学級	6学級	募集停止△5校△24学級
募集人員	40,640人	40,395人	245人	学級増 1学級 学級減 △1学級

(2) 募集学級の増減

ア 新設(5校 30学級)

高校の新設に伴い、募集を行う(板橋有徳、橘、八王子桑志、葛飾総合、東久留米総合)。

イ 募集停止(5校 △24学級)

既設校の発展的統合による新しいタイプの学校の設置等のため、募集を停止する(九段、忠生、王子工業、赤坂、市ヶ谷商業)。

ウ 学級増(1校 1学級) 東大和

エ 学級減(1校 △1学級) 蒲田

オ 通学場所の変更について

日本橋 平成21年4月1日から墨田区八広1-28-21に変更（移転のため）

(3) 普通科の男女別募集人員

ア 男女別募集人員の決定

都内公立中学校第3学年在籍者（平成18年5月1日現在）の男女比を踏まえて設定する。

区 分	男	女	計
公立中学校第3学年 在籍者男女比	52.5% (38,395人)	47.5% (34,727人)	100.0% (73,122人)
募集人員	14,196人	12,892人	27,088人

イ 男女別定員制の緩和

実施校においては、男女別募集人員の各9割まで男女別に合格候補者を決定した後、募集人員の1割について、男女合同で選考を行う（平成19年度実施校 55校）。

(4) 推薦対象人員（全学科） 10,335人

(5) 職業に関する学科の35人ホームルーム定員化の実施

職業学科の募集定員を35人とする（平成19年度実施校 42校 196学級）。

(6) 分割募集

受検機会の複数化のため、分割募集を行う。分割募集を行う学校は、学力検査に基づく選抜の募集人員を分割し、第一次募集期間及び第二次募集期間の2回に分けて募集を行う。

(7) 連携型中高一貫教育にかかわる選抜に係る募集人員

連携型中高一貫教育を実施している高等学校において募集人員の中に特別枠を設け、対象となる中学校から募集を行う（広尾、永山、蔵前工業、芝商業 合計60人）。

2 【定時制課程】（募集人員は男女を問わない）

(1) 学年制

ア 募集概要

区 分	19年度	18年度	増△減
学 校 数	39校	56校	△17校
学 級 数	74学級	104学級	△30学級
募集人員	2,220人	3,120人	△900人

イ 募集学級の増減

① 新設（1校 2学級）

高校の新設に伴い、募集を行う（橘）。

② 募集停止（18校 △31学級）

既設校の発展的統合による新しいタイプの学校の設置等のため、募集を停止する（新宿、鷺宮、富士、荻窪*、杉並、大泉、石神井、富士森、南多摩、武蔵、三鷹、久留米、向島工業、八王子工業、向島商業、四谷商業、第四商業、第二商業）。*荻窪は、単位制へ改編

③ 応募生徒数の増減等に伴う学級減（1校 △1学級） 総合工科

(2) 単位制

ア 募集概要

区 分	19年度	18年度	増△減	
学 校 数	16校	11校	5校	
募集人員	1学年相当	2,465人	1,625人	840人
	2学年相当以上	200人	180人	20人
	合 計	2,665人	1,805人	860人

※9月転入学者を含む。

イ 募集人員の増減

新設・改編（5校 840人）

高校の新設・改編に伴い、募集を行う（荻窪、板橋有徳、八王子拓真、稔ヶ丘、東久留米総合）。

3 【通信制課程】（募集人員は男女を問わない）

募集概要

学校名	学科名	一般募集		9月募集	募集計
一橋	普通科	1学年相当	160人	20人	180人
新宿山吹	普通科	1学年相当	50人	10人	120人
		2学年相当以上	60人		
砂川	普通科	1学年相当	160人	20人	195人
		2学年相当以上	15人		
合計			445人	50人	495人

※一橋高校における2学年相当以上の募集は、補欠募集として実施する。

4 【専攻科】（募集人員は男女を問わない）

募集概要

※高等学校卒業予定者等を対象とする。

学校名	学科名	募集人員
科学技術	機械情報デザイン科	20人
	化学環境システム科	20人
合計		40人

II 高等専門学校（募集人員は男女を問わない）

募集概要

学校名	学科名	募集学級	募集人員	備考
産業技術高等専門学校	ものづくり工学科	8学級	320人	品川キャンパス 4学級
				荒川キャンパス 4学級

III 中学校

募集概要

学校名	募集学級	募集人員
白鷗高校附属中学校	4学級	160人
両国高校附属中学校	3学級	120人
合計	7学級	280人

IV 中等教育学校

募集概要

学校名	募集学級	募集人員
小石川中等教育学校	4学級	160人
桜修館中等教育学校	4学級	160人
合計	8学級	320人

平成20年度開校予定都立中高一貫6年制学校の入学者決定に係る適性検査問題(例)等について

都教育委員会は、平成20年度に開校を予定している立川地区中高一貫6年制学校（国際中等教育学校）〔仮称〕及び武蔵野地区中高一貫6年制学校〔仮称〕において、それぞれの学校の特色や求める生徒像について広く都民にお知らせするため、適性検査問題（例）等を作成しました。概要は次のとおりです。

学校名 (仮称)	立川地区中高一貫6年制学校 (国際中等教育学校) (対象校：都立北多摩高等学校)	武蔵野地区中高一貫6年制学校 (対象校：都立武蔵高等学校)
学校 の 特 色	1 国際社会に貢献できるリーダーを育成するため、幅広い教養を身に付けさせる。 2 英語を重点教科として位置づけ、多様な指導方法により高度なコミュニケーション能力を育成する。 3 帰国生徒・在京外国人生徒がともに学ぶことで国際理解教育を推進し、異文化を理解し尊重する態度を育成する。	1 体験的な学習を通じて、理論や法則が見出される背景を理解し、科学的なものの見方や考え方を養う。 2 総合的な学力を育てるため、様々な問題を教科横断的に学ばせる「地球学」を総合的な学習の時間に設置し、環境、地域、人間と機械、生命、地球等について、発達段階に即して6年間一貫して学ぶ。
出題 の 基 本 方 針	1 資料の内容を読み取り、その中から必要な情報を集め、分析する力をみる。 2 課題を的確に理解し、論理的に考察・処理する力をみる。 3 自己の考えや言葉の意味などを、相手にわかりやすく伝えようとする表現力をみる。	1 文章を深く読み取る力、自己の体験に基づいて論理的な文章をつくる力をみる。 2 資料を分析し考察する力、資料の読み取りに基づいた論理的な思考力、表現力をみる。 3 リーダーとして必要な計画する力、問題を解決する力及び数理的に分析し課題を見出す力をみる。
適性 検査 問題 (例)	適性検査Ⅰ【45分】 ①○ 日常の会話の場面をもとに、言葉に対する理解と場面に応じて適切に用いる力をみる。 ○ 都市の温暖化に関する複数の資料をもとに、その特徴を正確に読みとる力をみる。 ②○ 立体図形や現象を科学的に見ようとする力をみる。 ○ 数字を使ったゲームをもとに、論理的に考え、それを表現する力をみる。 適性検査Ⅱ【45分】 ○ 文章や資料の中から必要な情報を集め、それらの関連を見つけ、それをもとに自分の考えを表現する力をみる。	適性検査Ⅰ【45分】 ① 新聞記事を資料とし、その内容を適切に表現するとともに、自分の考えや意見を述べる力をみる。 適性検査Ⅱ【45分】 ① 図や資料をもとに、地球規模で「水」についてとらえ、様々な面から考察し、表現する能力をみる。 適性検査Ⅲ【45分】 ① グループで作業をする場面をもとに、リーダーとして必要な計画性や課題解決のための工夫をする力をみる。 ② 資料を整理し、その資料をもとに分析し、新たな課題を発見する力をみる。

いじめ問題解決への対応について

都教育委員会は、いじめ問題への対応として、これまで「ふれあい月間」の実施、スクールカウンセラーの配置、教員研修の実施など様々な取組を行ってきました。最近、いじめにより児童・生徒が自らその命を絶つという痛ましい事件が相次いで発生していることを重く受け止め、9月7日、児童・生徒の問題行動への対応について通知文を発出、10月20日には資料「いじめ防止のための資料」「いじめを許さない！」を配布し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応についての取組を行うよう指導するなどの対応を行ったところです。

11月6日、いじめを原因とする自殺予告の手紙が文部科学大臣に届けられ、手紙の消印が東京都内である可能性があることから、都教育委員会教育長は11月8日、緊急アピール「いじめを許さず、尊い命をまもるために」を発表しました。アピールの中で教育長は、子どもたちへ向けて「自らの命を絶ってはいけません。」と訴えるとともに、保護者や教員、校長へ子どもの気持ちを受け止めるよう呼びかけました。

教職員への児童・生徒へのいじめによる服務事故への対応について

都教育委員会は、教職員の非行に関して「懲戒処分基準」（教職員の主な非行に対する標準的な処分量定）を定め、周知してきましたが、いじめにより児童・生徒が自らその命を絶つという痛ましい事件が相次いで発生し、さらに、それらの事件の中には教職員が加担し又は助長していたとされる事例も見られる昨今の状況を踏まえ、今後教職員による児童・生徒へのいじめの根絶を図るため、10月27日、「懲戒処分基準」に「児童・生徒へのいじめ」の種類を新設しました。

1 非行の種類「児童・生徒へのいじめ」の定義

教職員の児童・生徒へのいじめは、身体的・心理的な攻撃を継続的に加えることにより児童・生徒に深刻な苦痛を感じさせる行為又は児童・生徒間のいじめに加担する若しくは助長する行為をいう。ただし、その行為の態様等により、児童・生徒の苦痛の有無にかかわらず、いじめと認められる場合がある。

2 処分量定について

非 行 の 種 類		処分の量定
児童・生徒へのいじめ	児童・生徒へのいじめ又は児童・生徒間のいじめへの加担若しくは助長を行った場合で、その内容が悪質である場合、児童・生徒の苦痛の程度が重い場合（欠席・不登校等）、隠ぺいや常習性がある場合等を総合的に判断	免 職 停 職
	児童・生徒へのいじめ又は児童・生徒間のいじめへの加担若しくは助長を行った場合	減 給 戒 告

3 いじめ再発防止研修（仮称）の実施

いじめを理由として懲戒処分を受けた教職員を対象として、新たに「いじめ再発防止研修（仮称）」を実施することとする。この研修は、処分を受けた教職員を一定期間教壇から外し、教育公務員としての自覚を促すものである。

研修の期間及び内容は、処分の量定により、別途定めるものとする。



平成18年度「東京都教育の日」の取組

都教育委員会は、都民の教育への関心を高めるとともに、東京の教育を見つめ直し、子どもの育成について考える契機とする日として、毎年11月の第一土曜日を「東京都教育の日」としています。平成18年度は11月4日に当たり、「子どもの生活習慣確立」をテーマに掲げ、10月から11月にかけて都、区市町村、学校などで様々な取組が行われました。

東京都教育の日推進事業の取組を紹介します。

「東京都教育の日」の標語及びポスター

「東京都教育の日」の普及啓発のため、「子どもの生活習慣」に関する標語とポスターを募集しました。たくさんの応募作品の中から最優秀賞に選ばれたのは、次の作品です。

標語部門 最優秀賞

小学生の部

楽しいね 家ぞくで食べる 朝ごはん

台東区立田原小学校 2年 大前佐穂子さん

中学生の部

テレビより 心にひびく 家族の言葉

渋谷区立広尾中学校 1年 角田友季さん

ポスター部門 最優秀賞

小学生の部

文京区立青柳小学校
3年 林田朋子さん



中学生の部

江東区立深川第五中学校
2年 須永 涼さん



高校生の部

都立石神井養護学校高等部
3年 小島悠太さん



これらの最優秀賞及び優秀賞の作品を使って「東京都教育の日」のポスターやリーフレットを作成し、各学校に配布するとともに、都バスの車内などに掲示しました。

2 心の東京革命推進事業－ 米長邦雄の親子ふれあい将棋教室

11月3日、都庁において米長邦雄の親子ふれあい将棋教室を開催しました。当日はプロ棋士の渡辺明竜王、佐藤義則八段、小野修一八段、関屋喜代作七段、宮田利男七段、依田有司六段、松尾歩六段、中村太地四段、小田切秀人指導棋士四段、上田初美女流初段に御指導いただき、見学者も含め、267人の親子が将棋に親しみました。また、都立日比谷高等学校の棋道部員有志のみなさんがボランティア

アとして参加しました。

プロ棋士と対局した親子からは、「親の方が真剣になってしまいました。」「プロは強かったけど、将来はプロ棋士になってもう一度挑戦したい。」という声が聞かれました。また、初心者コーナーでは、真剣な面持ちで指導棋士からの指導を受ける親子の姿が見られました。親子が共に将棋を楽しむと同時に、将棋を通して親子がふれあう機会になりました。



親子対局



対局を見る米長教育委員

3 都立図書館「文字・活字文化フォーラム」の開催



みなみらんぼう氏

都立図書館は、10月28日、都庁において都立図書館「文字・活字文化フォーラム」を開催しました。10月27日の「文字・活字文化の日」にちなみ、都民の方に広く文字・活字文化及び子どもの読書活動についての関心を深めていただくとともに、子どもの読書活動が広がっていくことを目指し、昨年に引き続き開催したものです。

シンガーソングライター みなみらんぼう氏による講演では、「輝くことば」と題し、自身の子ども時代の読書経験や家族・地域のきずなについてお話いただきました。武蔵野市教育委員でもあ

る氏は、「語り聞かせは、いつ咲くかわからない種を子どもの心に撒く作業。大人になったときにふと思い出し、その言葉の奥に潜む大切なことに気付き、それを次の世代に伝えていくとても素敵な連鎖だと思う。」と話されました。

その後、子ども読書活動実践団体活動報告として、三鷹市文庫連絡会、まちだ語り手の会、練馬区立光が丘図書館による実践発表が行われました。

都教育委員会では、文字・活字文化振興法の趣旨を踏まえ、今後も子どもの読書活動を始め、文字・活字文化の振興に関する施策を一層充実させていきます。



練馬区立光が丘図書館の発表

4 都教育委員による「東京都教育の日」区市町村連携事業の視察

都教育委員会教育委員が平成18年度の「東京都教育の日」のテーマである「子どもの生活習慣確立」にかかわる区市町村との連携事業を視察しました。

● 11月5日 新宿区立鶴巻小学校

● 11月12日 新宿区立四谷第三小学校

新宿区では、小学校入学前の子どもや保護者が抱える不安を解消するため、就学時検診等を活用した取組を行っています。11月5日に米長委員が新宿区立鶴巻小学校、11月12日に高坂委員が四谷第三小学校での取組を視察しました。

子どもを対象とした「遊びを通しての仲間づくり」では、子どもたちが楽しみながら自然に体を動かす様子を見学しました。保護者を対象とする「子どもの生活習慣に関するワークショップ」では、子どもに自己肯定感を持たせる大切さについて講師の話聞いた後、委員が保護者の輪に入って子育てや教育に関してそれぞれの意見を交換しました。

小学校入学前に、子どもたちが遊びを通して仲間になるとともに保護者同士がお互いを知ること、親子ともに小学校生活をスムーズにスタートできることが期待されます。



保護者と意見交換する高坂委員

● 11月17日 足立区立中央図書館

親から子への読み語りは親子の信頼関係を強めるという視点から、足立区では、乳幼児と保護者を対象に「読み語り」の取組を行っています。CDやテレビの音声ではなく、親が子どもに向かって語りかけることで、相互のつながりがより深まると考えられます。11月17日、鳥海委員が足立区立中央図書館での活動を視察しました。「読み語り」をする図書館職員を囲んで、0歳から3歳までの子どもたちが、保護者とともに絵本「あがりめ さがりめ」や「こいぬのくんくん」などのおはなしに目を輝かせながら聞き入っていました。



鳥海委員（後方右）

● 11月25日 葛飾区立飯塚小学校

葛飾区公立小学校PTA連合会第8ブロックでは、子どもの生活習慣確立に向けた取組の一つとして、11月25日、葛飾区立飯塚小学校において小学生の保護者を対象とする「子どもを伸ばす生活リズム」と題した講演会を開催しました。この講演会を、木村委員長が視察しました。

小児神経科医である講師が、生活習慣や生活リズム向上のために親ができること、子ども自身が気を付けたいことなどについて、具体例を交えながら話しました。眠りは子どもの心と身体と頭脳の栄養であること、心身の発達のためには眠りと食と活動とのバランスが重要であることなどが、ユーモラスに語られ、会場からは時折笑い声も聞かれました。参加した保護者たちは、「早起き 早寝 朝ごはん それに 朝ウンチ」の大切さを改めて認識し、早速今日から改善できることについて、熱心にメモをとっていました。

5 「未来を拓く体験発表会」の開催

都教育委員会は、「心の東京革命」の一環として、子どもたちの社会性や豊かな人間性をはぐくむために様々な体験活動を推進しています。

子どもたちが取り組んだ奉仕体験活動、職場体験活動、伝統・文化を受け継ぐ活動などの様子や成果を紹介し、学校、家庭、地域社会における体験活動の一層の推進を図るため、11月11日、都庁において「未来を拓く体験発表会」を開催しました。

体験発表では、都立学校及び都内公立学校の児童・生徒が自分たちの活動や体験について、映像や演出に工夫をこらしながら生き生きと発表していました。次に、としまNPO推進協議会会長 柳田好史氏を講師にお迎えし、「子どもたちへのメッセージ『楽しくやろうボランティア』」と題して御講演いただきました。柳田氏は、池袋駅前の放置自転車問題にボランティアで取り組んでいる経験を語り、子どもたちへ向けて「ちょっとだけ自分の周りにいる人を思いやって、困っている人がいたらどうしたらいいか仲間をつくって相談してください。そして、みんなで決めたことを楽しくやってほしい。周りの大人も応援してくれるし、周りがうれしければ自分もうれしいよ。みんなを笑顔にしよう。」とメッセージを送りました。



葛飾区立半田小学校の「郷土芸能『葛西ばやし』」



都立科学技術高校の「サイエンスライブショー」

なお、当日の司会・運営は都立上水高等学校、都立八王子盲学校、台東区立浅草中学校の生徒が行いました。司会を担当した生徒は、「緊張しました。アクシデントなく進行できたのは、皆さんの協力のおかげです。」「すてきな体験発表を聞くことができ、とても勉強になりました。」と話していました。

「緊張しました。アクシデントなく進行できたのは、皆さんの協力のおかげです。」「すてきな体験発表を聞くことができ、とても勉強になりました。」と話していました。

体験発表一覧

- | | | |
|--------------------------|-----------|--|
| ① 葛飾区立半田小学校 | 〔アトラクション〕 | 郷土芸能『葛西ばやし』 |
| ② 昭島市立多摩辺中学校 | 〔自然体験活動〕 | ホテルの保護活動 |
| ③ 都立武蔵高等学校 | 〔奉仕活動〕 | 夏季休業中のボランティア活動 |
| ④ 都立八王子盲学校 | 〔読書活動〕 | 点字読書活動等 |
| ⑤ 都立小笠原高等学校
台東区立浅草中学校 | 〔自然体験活動〕 | 都立小笠原高等学校の兄島における自然体験活動を、台東区立浅草中学校のアナウンス部の生徒が内容を編集し発表 |
| ⑥ 大田区立中富小学校 | 〔環境保全活動〕 | 運河清掃活動 |
| ⑦ 都立科学技術高等学校 | 〔アトラクション〕 | サイエンスライブショー |

6 都教職員研修センターの公開講座

11月14日、都教職員研修センターにおいて公開講座「知る楽しさ、学ぶ楽しさ ―好奇心・探究心の豊かな子ども―」が開催されました。サブテーマを「はてな・ワクワク・ドキドキ 子どもの心を揺さぶるには」とし、子どもたちに自然科学の楽しさを伝えるために今何が求められているかを様々

な角度から探りました。

基調講演では、宇宙航空研究開発機構（JAXA）チーフエンジニア・オフィス システムズエンジニアリング推進室 エンジニアリンググループ長 岡田匡史氏を講師にお招きし、ロケットエンジン開発に携わった御自身の経験を中心にお話いただきました。岡田氏は、中学生のときにロケットに興味を持ったきっかけやエンジニアとして心に残ったエピソードとともに、大切だと思うこととして「大人が希望と夢を追いかけること、自分がワクワクドキドキすること、その姿を子どもたちにしっかり示すことです。」と語っていました。

次に、聖徳大学人文学部児童学科教授 宮下英雄氏をコーディネーターに、東京都公立中学校PTA協議会副会長 仲田和人氏、千代田区立九段小学校主幹 石井雅幸氏、品川区立荏原第一中学校長



基調講演

中村日出夫氏、都立戸山高等学校教諭 石川千秋氏をパネリストとして、パネルディスカッションが行われました。石井氏、中村氏、石川氏が、学校における実践的な取組例や子どもの反応について、仲田氏が、親の立場で子どもたちに伝えたいことや授業への要望について話されました。最後に、コーディネーターの宮下氏が、「自分からやってみようという子どもの気持ちを大切に、子どもたちが持っている可能性の花を咲かせましょう。」と述べ、公開講座を締めくくりました。

7 東京文化財ウィーク2006

都教育委員会は、毎年「東京文化財ウィーク」を実施しています。公開事業と企画事業の二つの柱からなるこの事業は、より多くの都民に文化財を身近に感じていただくことを目的として行っているものです。

11月3日から12日までの公開事業では、都内にある約300件の文化財が一斉に公開されました。期間限定で公開される「特別公開」のうち、平成17年度に国の重要文化財に指定された旧渋沢家飛鳥山邸「晩香廬」「青淵文庫」（北区）は、ともに大正期を代表する建築家田辺淳吉による設計で、機械生産では作れない精緻な技術を持つ芸術的な建築物です。11月12日、東京文化財ウィークアンバサダー（特命大使）の海老名香葉子さんらが訪れ、当時の技術の高さなどを堪能しました。

また、10月1日から11月30日までの企画事業では、区市町村や民間団体がそれぞれに趣向を凝らして文化財めぐりや講座・講演会などを実施しました。

11月26日には、「都立清澄庭園」（都指定名勝）において都教育委員会主催の特別企画「江戸を体感する」を開催しました。庭園内の大正記念館では、越川禮子さんによる講演「江戸しぐさ」が行われ、江戸の生活の中で生まれた、お互いが相手を思いやるしぐさについてのお話に、多くの都民が耳を傾けました。その後の「江戸を聴く」では、藤山新太郎さんによる「和妻」（伝統的な手品）と富士松小照さんによる「新内節」の公演があり、江戸の人々を魅了した演目が披露されました。



「和妻」



東京都「子どもの生活習慣確立プロジェクト」

子どもたちの体力や気力、学力の低下などの背景には、子どもたちの基本的な生活習慣の乱れがあると指摘されています。都教育委員会は、「子どもの生活習慣の乱れ」を改善し、望ましい生活習慣を確立するため、その役割を担う「家庭の教育力」を学校や地域社会と連携しながら支援する、東京都「子どもの生活習慣確立プロジェクト」を実施しています。

●事業の目標

- (1) 子どもの基本的な生活リズムの確立
- (2) 子どもの基本的な社会性・自立心をはぐくむ

●対象

主に、就学前(0歳から6歳)を中心とした小学生までの子どもの保護者

●平成18年度の取組

(1) 「子どもの生活習慣確立東京都協議会」の設置

多様な取組を全都的に展開するため、民間と行政が協働する仕組みです。子どもの生活習慣に関係のある企業や子育て中の保護者にアプローチできる企業、医師会等や経済団体、PTA等の社会教育関係団体や区市町村等に参加していただきます。

(2) フォーラム「見直そう、親子の生活習慣 築こう、子どもの生活リズム」

企業・青少年育成団体・学校教育関係者・社会教育関係者及び都民を対象として、12月16日、都庁においてフォーラムを開催します。ぜひ、御参加ください。

(3) テキスト、ビデオ、リーフレット(テキスト概要版)の作成

共通タイトル: 「そうだ、やっぱり早起き・早寝!」

都内公立小学校の入学説明会において、新1年生の全保護者に啓発テキストを配布し、ビデオを上映する予定です。



そのほか、ポスターやチラシの配布、区市町村と連携し地域の特色を生かした活動など、「子どもの生活習慣確立」を目指して様々な取組を推進していきます。

Information

「子どもの生活習慣確立東京都協議会」設立記念フォーラム

見直そう、親子の生活習慣 築こう、子どもの生活リズム

- ▶ **内容** 基調講演 「元気な子どもの生活リズム」
講師 神山 潤氏 (小児科医・東京北社会保険病院副院長)
シンポジウム 「みんなで築こう生活リズム ～めざせ! 元気なデイキッズ」
とりくみ見本市&データパネル展
- ▶ **日時** 平成18年12月16日(土) 13:00~16:30
- ▶ **会場** 都庁大会議場 (第一庁舎5階)
- ▶ **対象** 関心のある都民、企業、青少年教育関係団体等 500人
- ▶ **申込み** 電話又は電子メールで、住所、氏名、電話番号、参加人数を明記しお申し込みください。
申込み多数の場合は抽選します。
- ▶ **締め切り** 12月11日(月)
- ▶ **お問い合わせ・申込み先** 教育庁生涯学習スポーツ部社会教育課
電話 03-5320-6859 (ダイヤルイン)
メールアドレス S9000027@section.metro.tokyo.jp